

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県阿武郡阿東町大字地福下286-1		
電話番号	083-952-5003	事業所番号	3578100434
法人名	社会福祉法人 友愛会		

訪問調査日	平成 20 年 8 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 7 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人 非常勤 3 人 (常勤換算 8.2 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 ~	1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 18,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
その他の費用	月額	12,000 円		
	内訳	光熱水費 12,000円		

### (4) 利用者の概要 (8月18日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	2	要介護 4	2	
	要介護 2		要介護 5	2	
	要介護 3	3	要支援 2		
年齢	平均 85 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 粟屋医院, 済生会山口総合病院 歯科
-------------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

法人母体が医療機関であり、医師、看護師との連携が十分とられ、毎朝看護師が訪問し、バイタル薬の管理を行なうなど、利用者、職員にとって安心につながっています。管理者を中心に職員のチームワークが良好で、温かく和やかな雰囲気の中、利用者は卒先して自分の役割を果たすなど(食事の準備、掃除など)、お互い支え合う関係が築かれています。利用者、家族、職員のアイデアを取り入れ、目の高さの名札表示、棚の設置、浴槽の中敷き等、工夫が感じられました。

### (特徴的な取組等)

今年度から地域のグループホーム交流会を立ち上げ、会場を持ちまわりとし、勉強会や情報交換会を2ヶ月に1回開催されています。介護計画作成に当たり、記録用紙の検討(一日1頁に日勤・夜勤者の記録がまとめられ、流れが適確に解りやすい。)をしたり、毎月モニタリングを行ない、評価・検討をして介護計画の見直しをされる等、職員の熱意が感じられました。毎年母の日には、「母の日の集い」をホームで開催し、家族と会食され、その様子をCDにして家族に届け喜ばれています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

第三者委員の選任、運営推進会議に地域住民代表のメンバーを拡大されるなど改善に向けて取り組んでおられます。

### (今回の自己評価の取組状況)

職員全員に自己評価表を配布し、関係の箇所を記入してもらい、管理者が取りまとめておられます。自己評価する事で気付かされ、反省、改善の資料になると、前向きに評価しておられます。

### (運営推進会議の取組状況)

民生委員、老人会長、婦人会長、地域包括支援センター、町役場、利用者、家族2名(順番)の参加で2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、自己・外部評価結果を報告し、意見交換の成果をサービスに反映しておられます。

### (家族との連携状況)

月一回は家族との面会を考え、医療費等の請求書や金銭報告と共に便りを送付し、家族との距離を近くする努力をされています。面会時には詳しく報告し、一緒に写真を撮るなど支援をしておられます。

### (地域との連携状況)

地域の運動会、祭り、盆踊りに、利用者、職員共に参加しておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 (1)</p>	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>その人らしい安心のある快適な生活を提供し、開設当初より「ゆっくり、楽しく、和やかに」の理念を定め実践している。法改正による地域密着型サービスの役割を考え、地域との交流を進めている。言葉として理念に含めたく検討中である。</p>	
<p>2 (2)</p>	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>施設内に理念を掲示して、職員間で共有し、朝、申し送り時に理念を確認し業務についている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>3 (7)</p>	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>運営推進会議メンバーから助言をもらい、地域の運動会、祭り、盆踊り大会等に利用者と共に参加している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>4 (9)</p>	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前年の評価結果について検討し、第三者委員の選任、運営推進会議への地域代表メンバーの拡大など改善に取り組んでいる。自己評価は、全員に評価表を配り、関係個所を記入してもらい、管理者が取りまとめ、サービスの向上に努めている。</p>	
<p>5 (10)</p>	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>民生委員、老人会長、婦人会長、町役場担当課、地域包括支援センター、家族(交代で2名)利用者の参加のもと2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、自己・外部評価結果の報告をして、意見をもらい、サービスに反映している。</p>	
<p>6 (11)</p>	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険担当課との連携、グループホーム交流会などの会議の際に、話し合いをしたり指導を受けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回苑だよりを発行し、利用者の状況を家族に報告している。同時に金銭報告や医療費の請求書等も同封し、確認印の返送をお願いしている。面会時には、詳しい報告を行い、一諸に写真撮影したりしている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や家族が行事に参加した時に声をかけ、意見等聞くようにしている。苦情受付担当、解決責任者、第三者委員を決め、書類に明記している。法人全体の「福祉サービスに関する苦情解決委員会規程」に基づき苦情に対応している。	○ ・相談窓口としての外部機関の明示
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況の変化、要望に対応するよう管理者は勤務調整している。夜間、緊急時は、管理者、近くの職員が対応している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動により利用者には不安を与えないよう、声かけをしている。新人の場合も挨拶し、了解を得た上で関わるようにしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階ごとに外部研修の機会を提供している。法人内での研修(感染症、拘束、転倒予防など)を年2回計画し、新任研修も法人で実施している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修などに参加している。今年度から地域のグループホーム連絡会を立ち上げ情報交換、勉強会を実施している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ホームの見学やデイサービスのお試し利用を行い、雰囲気にならな上、サービスを開始している。緊急入所の場合も事前に面接を行い馴染むようつとめている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食事の準備や片付け、掃除、洗濯物たたみなど一緒に行い、そのコツを教えてもらったり、戦争や原爆の話などを聞かせてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の係わりのなかで、思いや意向の把握に努め、メモしたものを各利用者ごとの保管ボックスに入れ、後で整理、確認、対応を検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ホームでより良く暮らすために、本人・家族の意見を取り入れ、関係者と話し合い、介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じた見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>アセスメントは4ヶ月ごとに実施し介護計画の見直しを行うと共に、毎月モニタリングを行って評価し、状態に変化が生じたときは本人、家族と話し合い、サービスの見直しをしている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>利用者の希望を聞き、買い物、外食、ふるさと訪問、美容院への送迎など、柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	殆どの利用者が、法人母体の協力医療機関にかかっており、適切に支援している。眼科などのかかりつけ医の受診は、家族が同行している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期については、医師、家族とよく話し合い、家族の納得のいく対応をしている。	・重度化、看取りの指針作成の検討と家族への周知
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ホーム内研修でプライバシー保護について確認すると共に、記録等は事務室に保管している。	・接遇研修の実施
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事などおおよその時間は決まっているが、一人ひとりのペースにあわせ支援している。	
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで作り、できる人は準備、配膳、片付けなど一緒にしている。食事は職員も同じ物を一緒に食べ、楽しい雰囲気である。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	風呂は毎日沸かし、半数交代で入浴している。浴室は明るく広く、窓から外を眺められ、楽しめるよう工夫されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、畑仕事、花づくり、食事の準備、配膳、片付け、掃除など活躍できる場を提供している。歌を歌ったり、テレビ視聴、体操、壁飾り、ちぎり絵などの作品作りを楽しんでいる。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩、外食、季節に応じた外出などの支援をしている。雨の日は、廊下の散歩をしている。	
、			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員全員が見守りを徹底し、利用者から離れるときは職員間で引き継ぎを行っている。玄関にはチャイムがあり、外出を察知し鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書に記載し、改善策を検討し、事故防止に努めている。報告書様式に改善がみられた。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、法人看護師の協力を得て、年2回の救急対応の訓練を行っている。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設内で年2回防火訓練を実施をしている。避難場所は確認しており、運営推進会議において、地域の協力を得ることを確認している。	・消防・警察との連携

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理表を作成して、薬の目的、副作用がわかるようにし、誤薬の防止に努めている。その都度手渡しし、服薬を確認している。体調の変化があるときは、看護師、医師に連絡している。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の歯磨き、うがいを実施している。定期的にコップ、歯ブラシの消毒・交換をしている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量は記録し、食事のすすまない人には栄養士の指導をうけている。栄養バランスにも配慮し、水分摂取は一人ひとりの状態に応じて不足のないように職員がこまめに勧めている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、施設内研修で学習し予防を実行している。消毒液でドアノブ、机など清拭し、下痢、嘔吐には注意している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	戸外の猛暑に比べ居間は快適で、利用者は好みの場所でくつろぎ、テーブルの位置も適当に変えられ、居心地よく過ごせるよう支援されている。季節の花や手作りの壁掛け、写真などを飾り、トイレの背もたれ、浴槽のすのこ、洗面所の鏡の位置、棚を隠すブラインドなど生活がしやすいよう随所に工夫がみられる。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は各個人の個性を生かしたその人らしい部屋のつくりになっており、好みのダンス、テーブル、イス、ベット、写真、絵画、置物などが持ち込まれ、落ち着ける雰囲気である。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム阿東園
所在地	山口県阿武郡阿東町大字地福下286番の1
電話番号	083-952-5003
開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 (7月20日現在)

ユニットの名称	グループホーム阿東園					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの 利用者数	9 名		男性	0 名	女性	9 名
	要介護1	2	要介護4	2		
	要介護2	0	要介護5	2		
	要介護3	3	要支援2	0		
年齢構成	平均	85 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価について、職員の見解を聞きながら、全体をまとめて評価した。
評価確定日	平成 20 年 7 月 25 日

## 【サービスの特徴】

個人個人のありのままの言葉、感情、想いをしっかり受けとめ、その時その時を、楽しくゆっくりと安心して生活していくことが、認知症の進行をゆっくりとしたものにしていくと思います。本人が楽しい、うれしいと感じる場面場面にたくさん関わり、ともに生活していくことが大切だと思います。個人のできることを、できるように支援していきたいと考えます。また、地域との関わり、グループホーム同士のつながりを深め、認知症への理解、協力をもとめていきたいと思っています。



## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	常に理念の意識づけをしていくことにより、日々のケアに反映されるようとりくんでいきたい。
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	○	地域に対してのホームの役割を職員全員が理解し、実地にむけて日々とりくんでいきたい。
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	○	職員間でもよく話し合いながら、価値観(想い、願い)、情報の共有のもと、個々のケアに関わっていききたい。
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	○	家族、地域の人が、気軽に立ち寄れるような行事を行って行けたらと考えている。
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	行事のほかにも、何か日常的な取り組みがないか検討している。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	○	地域住民に対して、認知症を理解してもらうための認知症ケアの啓発をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	事業所を活用し、交流を深めて生きたいし、ホーム内外での意見の交流の場をつくって生きたい。
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	○	制度について学ぶ機会をつくりたい。
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	○	重度化や看取りについての対応について
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		家族に対して、月1回たよりを発行し、生活、身体状況について報告している。請求や金銭出納についても知らせており、確認印の返信をもらっている。面会時には近況の報告と一緒に写真を撮ったりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>○<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p>○<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
22 (11)	<p>○<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	<p>今後も、施設外研修への積極的参加。施設内研修は年2回以上の定期的な研修、また新任研修を行い職員の資質の向上を図るようにつとめていきたい。</p>
23	<p>○<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>○<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p><b>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</b>            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p><b>○向上心を持って働き続けるための取り組み</b>            運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p><b>○職員の業務に対する適切な評価</b>            運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
28	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p><b>○初期に築く家族との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b>            相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31 (13)	<p><b>○馴染みながらのサービス利用</b>            本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
32 (14)	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b>            職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p><b>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p><b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<p><b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p><b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p><b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	○ <b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、関係者間で話し合い、本人にとってよりよいケアを提供していくよう努めている。	
42 (17)	○ <b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画期間及び、随時に見直し、実状に応じた介護計画を作成している。	
43	○ <b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員が個々に関わったケアについて記録し、情報を共有しながら今後のケアに活かしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	○ <b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関があり、また、施設看護師との医療連携による健康管理も整っている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	○ <b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて、協力を得られ支援している。	
46	○ <b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学希望者の受け入れはできている。	
47	○ <b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居者の希望により、訪問理美容サービスを利用している。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○ <u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議やグループホーム交流会に、センターの職員が参加することで、情報の交換、意見交換ができ協力関係ができています。		
49 (19)	○ <u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホームのかかりつけ医がおり、入居者の身体状況を常に把握しているため、適切な医療を受けることができる。受診について家族対応をお願いしている。		
50	○ <u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	月2回専門医が往診するため、相談したり、適切な治療を受けることができる。		
51	○ <u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日ごろから施設の看護師との連絡体制がとれているため、相談しながら支援することができる。		
52	○ <u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会時や電話連絡により、情報交換している。また、職員が見舞うことで、状態の把握に努めている。		
53 (20)	○ <u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族により、方針がちがうため、都度の確認と職員間でのケアについての話し合いを行っている。	○	今後は、早い段階でケア方針について話し合っていきたい。
54	○ <u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	身体状況に応じたケアを都度検討しながら提供している。		
55	○ <u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	都度対応している。	○	今後も、十分な情報交換を行い、本人の住みやすい生活環境をつくっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56 (21)	<p><b>○プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>		
57	<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
58	<p><b>○“できる力”を大切に家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		
59 (22)	<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。</p>		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
60	<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
61 (23)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		
62	<p><b>○本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		
63	<p><b>○気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴状況を把握しながら、楽しみのある入浴を提供している。言葉かけをしたり、対応を変えてみたり、個人に合った入浴支援をしている。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	生活のリズムを整え、安心して眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑仕事、花作り等、個人の得意なことを活かしてもらい、楽しみや生活の張り合いになるような場面づくりをしていくよう支援している。	○	今後も職員全員が本人の生活歴を充分に把握し、本人のやりたいことを見つけるよう努めていきたい。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出での買い物や入用の時は自由に使えるようにしている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望があるときは、状況に応じ対応できるようにしている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望を聞きながら、行けるときは計画をたて、家族にも声をかけ出かけられるよう支援している。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	できるかぎり希望にそっている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問できる体制をとっている。居室や居間で一緒にすごせるよう工夫している。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	いつでも対応できる体制が整っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
73	<p><b>○家族が参加しやすい行事の実践</b>            年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>	<p>お便りの中にも、各行事を紹介し、家族参加を呼びかけている。楽しみに待っておられる家族もおられる。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施設内研修において、拘束についての理解をしており、職員全体で取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p><b>○鍵をかけないケアの実践</b>            運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が見守りの方法を徹底し、自由を奪わないよう支援している。その場を離れるときは職員間での引継ぎを徹底している。</p>		
76	<p><b>○利用者の安全確認</b>            職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>本人のプライバシーに配慮しながら、所在確認の徹底に努め安全に配慮している。</p>		
77	<p><b>○注意の必要な物品の保管・管理</b>            注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>それぞれ状況に応じ、危険防止に取り組んでいる。</p>		
78 (29)	<p><b>○事故防止のための取り組み</b>            転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>個人の状態を把握するとともに、事故についての対応マニュアルを職員全員で徹底し、事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>            利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>施設看護師の協力を得て、救急対応の訓練を行っている。</p>		
80	<p><b>○再発防止への取り組み</b>            緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>	<p>報告書にまとめるとともに、原因を探り、今後に対応について都度職員間で改善方法を話し合っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火訓練を年2回行っている。運営推進会議において消防や地域の協力を得ることの了解を得ている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族来訪時や体調低下の際には、十分に説明をして安心して生活がつづけられるよう話し合っている。	○	今後とも日ごろから、家族との連絡を密にしていきたいようにする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の生活状況を把握しつつ、体調の変化にもすぐに対応できるよう職員間での情報の共有を行っている。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員全員が、既往歴と現在の健康状態を台帳にまとめており、服薬中の薬と効能、副作用等いつでもわかるようにしている。また、都度変更になった薬なども記録し直し対応している。体調面の変化については看護師や医師に連絡している。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個人における排便状況を把握し、個人に応じた取り組み(水分、食事内容、運動、)を行っている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後歯磨き、うがいを徹底している。定期的にコップ、ぶらしの消毒、交換を行っている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を記録しており、個人の食事量を把握している。食事のすすまない人については施設の栄養士と相談して対応している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、施設内研修等で学習し徹底している。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まないた、布きん、包丁は使用都度消毒している。また、食材についても鮮度のあるものを購入し、調理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>			
90	<b>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	出入りしやすいよう工夫している。季節に応じた草花を置き、気持ちよい空間をつくっている。	
91 (36)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ほっとやすらぎような家庭の温かさが感じられるような雰囲気を取り入れ、季節、行事にあわせたものを配置している。音の大きさや照明度は都度入居者の意向を確認しながら調整している。	
92	<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル位置などみんなで一緒に過ごす時と、ひとりで過ごすこともできるよう工夫している	
93 (37)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ダンス、ベット、椅子、テーブルや写真、絵画、置物等馴染みのあるものを持ち込んでもらい、本人が落ち着けるような空間をつくっている。	
94	<b>○換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その日の状況に応じて、室温の調整を行っている。それぞれの入居者の身体状況によっても室温調整に違いがあり、換気にも気をつけている。	
95	<b>○身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	トイレや浴槽等、個々の状況に応じた工夫がある。	
96	<b>○わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者同士の関わりも手伝い、お互いに話し合ったり、気をつけ合ったりしながら、それぞれの生活が成り立っている。	
97	<b>○建物の外周りや空間の活用</b> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	散歩したり、ベランダで鉢植え作業したり、園庭でレクリエーションを楽しんだりし、一緒に活動できるスペースになっている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ③たまにある <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ③たまに <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、生き生きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない